

【1】安来市立布部小学校

1-1 学校の沿革・概要

所在地	安来市広瀬町布部 1152
校長	客野 智
生徒数	1年=2、2年=4、3・4年=9、5・6年=10、特別支援学級=1 計 29名

- 明治7年 布部村立須山益衛方を仮用、布部小学校設置
- 明治9年 布部村中曾根に校舎新築移転
- 明治42年 布部村古城山下に校舎新築移転
- 昭和16年 布部国民学校と改称
- 昭和22年 学制改革により布部小学校と改称
- 昭和42年 合併により広瀬町立布部小学校となる
- 昭和43年 裏山を学習園として設定
- 昭和46年 布部小こども郵便局 郵政大臣表彰（以降平成19年に閉局するまで8回におよぶ表彰を受賞）
- 昭和49年 創立百周年記念式典挙行
- 昭和51年 交通安全優良校として全国表彰
- 平成8年 「椿油十年誌」米国スミソニアン博物館入り
- 平成16年 西谷小学校と統合
合併により安来市立布部小学校と改称
- 平成22年 優れた教育活動表彰（島根県教育委員会：しまね教育の日）

布部小学校は広瀬町の中心街から国道を南へ10～20km、飯梨川支流布部川・西谷川沿いの山間の地である。布部地区に生息するハッチョウトンボ、西谷地区に生息するオオサンショウウオに象徴されるように四囲は清涼な自然環境にある。布部地区は、昔の宿場町の面影を残し、尼子・毛利の古戦場跡、野だたら跡なども残り、椿の里とも呼ばれている。

また、多くの著名な文化人・偉人（山中鹿之助・西田明史・加納辰夫・井上尠・橋本源一・細田育宏等）を輩出している地でもある。

近年、道路整備が進み、広瀬・安来までの便がよくなったこともあり、兼業農家の三世代家族が多く、人口の動態は安定している。しかし、少子化の影響で児童数は緩やかではあるが減少している。また、校区内の高齢化が進んでいる。

地域の教育への関心は高く、学校に寄せる期待は大きくまた協力的でもある。

1-2 学校林の現地調査

所在地 布部小学校に同じ

面積	林種	樹種	歩合	林齢	樹高	標高
約1ha	天然・人工・竹林	雑木、スギ・ヒノキ、タケ	60:30:10	20~50	約20m	約155m

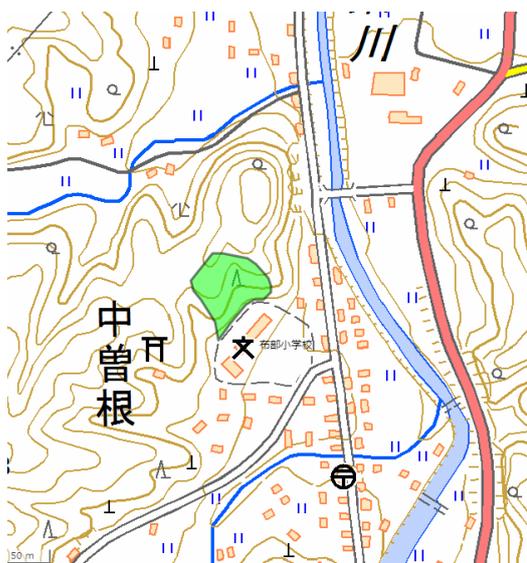


図 1 布部小学校学校林概略図

布部小学校の学校林は校舎のすぐ裏手に位置し、昭和43年に裏山を学習園として設定したのが始まりのようである。始まりとともにそれまで生えていた樹木（おそらくアカマツ）が伐採されたかどうかは不明だが、林齢が若いことから必要に応じて何度か除伐をされてきたと思われる。

敷地内の高木層はウラジロガシ、ホオノキ、コナラ、スギ、モウソウチクなど。亜高木および低木層はヤブツバキ、イロハモミジ、マユミなどからなる落広・常広・常針・竹の混交林となっている。林内は間伐や竹の除去が適度にされているので常緑樹が多いもののやや明るい林であるが、場所によっては林床にササ類が繁茂し、歩道が草に覆われているなど管理が行き届いていない部分も見受けられる。

北のピーク部分にはあずまやが設置され、その周辺には「緑の少年団活動」の一環として植樹された落葉樹が植えられている。また、尾根の2か所に古いコンクリート製のベンチが設置されている。

1-3 学校林活動の調査

聞き取り相手	教頭 赤山 智恵
カリキュラム	総合的な学習の時間
対象学年	3年生から6年生
利用方法	3・4年生・・・樹木観察、ネイチャーゲーム 5・6年生・・・森林保全の講義、間伐体験

利用頻度	年4回
外部講師・委託先	NPO法人もりふれ倶楽部
課題	森林の手入れや講師は専門家がいないと続けていくことはできない。定期的に森林の管理を行える人が必要。 単独の活動としては良いが、子ども達に根付くようにどう働きかけ、森林教育を深めていくかが課題。
今後取り組んでいきたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人も参加できるような活用を行い、ふるさと教育になるような取り組みを行いたい ・要害山とつなげたルートの整備 ・理科の授業などほかの教科もからめて学習の場としたい

あまり昔のことはわからないが、5～6年前に助成金を受けるようになってから学校林を活用するようになり、それまでは活用していなかった。委託先のもりふれ倶楽部の協力によって草刈りや倒木処理、間伐などが行われ、手入れされたことでようやく森の中に入れるようになったという状況である。

学校林の活用方法を学校の教職員独自で考案していくことは難しく、今後も続けていくためには専門家による講座や教職員へのアドバイスが必要となってくる。地域の人への認知度もまだ低いようなので、地域住民が参加できる仕組みづくりを行っていくことも望まれる。また、敷地の一部は「急傾斜地崩壊危険区域」に指定されており、校舎の背を囲うように防護柵が設置されている。災害を食い止めるためにも、適切な森林管理は必須であるといえる。

添付資料 1



写真 1-1

ネイチャーゲーム（平成26年10月2日）



写真 1-2

樹木観察（平成26年10月2日）



写真 1-3

間伐体験（平成26年11月6日）



写真 1-4
学校林外観（平成27年5月11日）



写真 1-5
学校林内観（平成27年5月11日）



写真 1-6
植樹跡（平成27年5月11日）